

越前市政報告

越前市長 奈良 俊幸

本年3月11日に発生した東日本大震災は、東北・関東地方に甚大な被害をもたらしました。改めて、亡くなられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

越前市においては、地震発生直後より、南越消防組合や市水道部の職員、保健師を被災地に派遣し、支援活動に取り組みました。

また、多くの企業や市民から義援物資、義援金が市に寄せられたことから、市独自の支援活動を幅広く実施しました。

主な支援事業としては、3回にわたって市独自の災害ボランティアを宮城県気仙沼市に派遣するとともに、6回にわたって被災地に義援物資の輸送を行い、食料や飲料水はもとより、児童書や剣道の竹刀・防具、ドラムセットなどを気仙沼市内の小中学校や幼稚園・保育園に送りました。

併せて、震災孤児に対する支援として、岩手・宮城・福島の3県に200万円ずつを寄贈しました。

さらには、風評被害を受けている被災地の農産物の販売促進会等を市内で開くとともに、被災者見舞金支給制度を創設し、被災地から市内に避難された世帯に対し見舞金を支給しました。

引き続き、10月に開幕するたけふ菊人形の会場で被災地の物産販売と観光PRを行うなど、今後も市民との協働により、被災地の復興支援に取り組んでまいります。

東日本大震災では、東京電力福島第一原発の事故に伴う放射性物質の放出により、今なお周辺住民の避難が続いています。

本市は、日本原電敦賀原発の半径20km圏内に市域の半分近くが、半径30km圏内にほぼ全域が入ることから、市民の間に強い衝撃が広がっています。

今回の事故を踏まえ、市では速やかに、国・県に対してEPZ（原子力防災対策を重点的に充実すべき地域の範囲）の拡大や資機材の配備など、原子力災害対策全般を抜本的に見直し、防災態勢の整備強化を図るよう要望しました。

市においても、市地域防災計画「原子力災害対策編」の策定準備を進めており、国・県の動向を注視しながら対応を図っているところです。

その一環として、近県で本市と同じような原子力発電所からの位置関係にある石川県七尾市との間で、住民の避難対策を含めた災害時相互応援協定を10月に締結します。

また、既に災害時相互応援協定を締結している他市とも、原子力災害への対応に関して調整を行っています。

併せて、原子力災害への市民の不安に応え、市独自に放射線量測定器を4台購入しました。

今後、福島第一原発の事故の知見を踏まえ、安全で安心なまちづくりを推進してまいります。

老朽化した庁舎の建設については、合併協定において日野川東部への庁舎移転が位置付けられていますが、財政的な理由や市民の合意形成の観点から、新幹線南越駅の開業や丹南地域の広域合併を視野に、将来的に庁舎を日野川東部に移転することとし、当面は学校施設の耐震化や戸谷片屋線の整備等の市民ニーズに応える施策を優先しながら、庁舎建設基金の計画的な積立に努めてまいりました。

ところが、平成23年度より庁舎建設に係る起債制度が大きく拡充されたことから、合併特例債を活用すれば財政的に非常に有利な形で、しかも現在の本市の財政状況でも新庁舎の建設が可能となりました。

さらに、秋の臨時国会では合併特例債の発行期限が5年間延長されるとの報道もあり、今後は人口減少社会の到来を踏まえたコンパクトなまちづくりに配慮しながら慎重に市民の合意形成を図り、新庁舎の位置等を決定していくことが重要な課題となります。

福井県と兵庫県が共同し、本市の白山地区で計画しているコウノトリの放鳥定着実験については、兵庫県立コウノトリの郷公園で今年は雄雌ペアのコウノトリが孵化しなかったことから、親鳥のペアを本市に移送するなど新たな計画案の検討が両県で行われています。

既に、県は白山地区の中野町にコウノトリの飼育ケージを設置するとともに、市は飼育ケージの隣接地にえさ場を整備したほか、コウノトリが棲みつき、巣づくりができるように、地元住民と協働してコウノトリの巣塔を設置しました。

併せて、市は「コウノトリが舞う里づくり構想」を3月に策定し、その推進体制として「コウノトリが舞う里づくり推進協議会」を6月に設置するなど、着々と準備を進めてきました。

昨年に続き、10月には「2011コウノトリが舞う里づくり大作戦」を開催し、全国で先進的な取組みを実施しているNPOなどの事例発表や情報交換を行うシンポジウムを開くなど、コウノトリが舞う里づくりを目指して、引き続き県や地域住民との協働による取組みを進めてまいります。

本市の伝統産業である越前和紙を題材に、越前和紙の里を舞台とする映画「HESOMORI - へそもり」が9月3日から県内3つの映画館で上映されています。

主演の永島敏行氏をはじめ、渡辺いっけい氏、石丸謙二郎氏、佐野史郎氏、村田雄浩氏、若林豪氏など豪華なキャストが出演し、越前市今立地区を中心に撮影された映画であることから、越前和紙の魅力を全国に発信し、越前市を広くPRする絶好の機会として、市では県和紙工業協同組合と連携し、ロケ地巡りのバスツアーの実施やロケ地の説明板、案内マップ、行灯の製作などに支援を行ったほか、JR武生駅や福井駅前等にPRコーナーを設け、観客増員に努めています。

今年で60回目を迎える「たけふ菊人形」については、「江姫と戦国の女たち」をテーマに、10月1日から11月6日までの37日間の日程で開催準備を進めています。

第60回記念事業として、世界一大きなメガ菊人形やジャンボトピアリーの制作、東日本大震災への支援事業等を実施するとともに、野外ステージやフードコート方式を取り入れた食事スペースの設置など会場のレイアウトも見直すこととしています。

教育の振興については、本市と財団法人日本サッカー協会が平成21年4月に締結した「『元気な自立都市 越前』を創造するための協定書」に基づき、現在、市内の全ての小学5年生と中学2年生を対象に「こころのプロジェクト・夢の教室」を開催し、夢を持つことの大切さ、仲間と協力することの素晴らしさについて、日本サッカー協会から派遣された「夢先生」が授業を実施していただいております。10月には貴乃花親方が「夢先生」として本市にお越しいただく予定です。

また、「越前市ふるさと大使」を務めていただいている日本サッカー協会の小倉純二会長のご尽力により、協定書に謳われている「越前市を全国にPRする事業」を同協会に委託することになり、平成23年度から「天皇杯全日本サッカー選手権大会」の賞状やポスター、チラシに越前和紙を使用することが決定しました。

この他、本市のイメージアップ事業としては、県内で初めて原動機付自転車にオリジナルナンバープレートを導入するためのデザインを6月末まで公募したところ、全国から118点の応募があり、審査の結果、越前打刃物（包丁）をモチーフとしたデザインが選ばれました。

新しいナンバープレートは、10月から交付されます。

今後も、市民との協働により「元気な自立都市 越前」の創造に努めてまいりますので、武生郷友会の会員の皆様の越前市に対する引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。